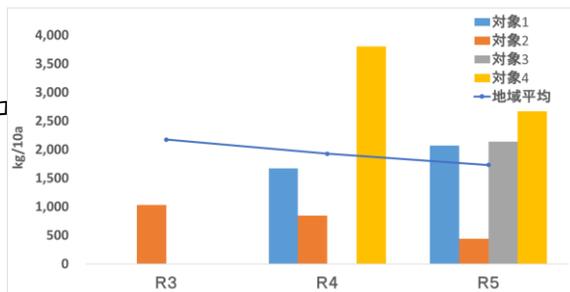


## 概要

- 北秋田地域のJAあきた北ではH20年にはねぎの販売額が1億円に迫る産地であったが、部会人数が半数以上が縮小したことにより、産地規模が縮小傾向にあった。
- 一方で、近年では一定数の新規作付け者があり、特に基盤整備事業を契機に農業法人がねぎ栽培に取り組むケースが増えており、再び「**ねぎ1億円産地**」を実現させようとする気運が高まっていた。
- R4年度よりJAあきた北のねぎ1億円産地の実現を目指し、作付面積の拡大のための新規作付け者の掘り起こしや既存生産者への支援を行ったほか、単収向上のための指導体制を強化し、重点指導等に取り組んだ。
- その結果、作付面積の増加やねぎ作付者の生産技術向上につながったほか、SNSによる情報発信体制の確立につながった。

## 具体的な成果

- 新規作付け者が5名増加
- 省力化除草の実践により既存生産者の作付面積が0.6ha増加
- 産地として排水性改善に取り組む体制を構築
- スマート農業技術を現地へ普及
- 重点指導対象経営体4名のうち3名が地域平均単収を上回った。
- 部会内でSNSによる情報発信体制が確立
- 基盤整備地区（1地区）にてねぎの栽培導入が決定



重点指導対象経営体4名の単収（R3～5年）



## 普及指導員の活動

令和4年

- 新規作付け者を増やすために、ねぎ作付への意識啓発活動を実施。
- 土壌断面調査を行い、農業試験場と連携して解析。土壌物理性の改善をテーマに研修会を開催。
- SNSグループをJAあきた北と共同で運営し、情報提供体制を構築。

令和5年

- 新規作付け者を対象に勉強会や作業体験会、先進地視察を実施。
- 排水対策実証ほを設置し、排水対策の重要性について周知。
- 生産者アンケートを実施し、習熟度や作型ごとの課題を把握。

令和6年

- 省力除草体系の技術指導を実施。
- 大規模経営体に対して作業計画作成や栽培技術習得への個別指導を実施。
- スマート農機の実演会を実施。

## 普及指導員だからできたこと

- ・ 部会としてのねぎの生産規模拡大と販売額1億円への目標に向け、新規作付け者の確保や既存生産者の栽培技術の向上、排水性改善の重要性の周知、スマート農業技術導入など、**専門技術を生かした活動が行えた。**
- ・ JAや篤農家と連携してSNSの活用によって**情報連携を容易にした**ことで、産地として栽培技術の高位平準化を目指すなど、コーディネート力を発揮し、ねぎ作付へのハードルを下げ、産地としての発展に寄与した。

秋田県

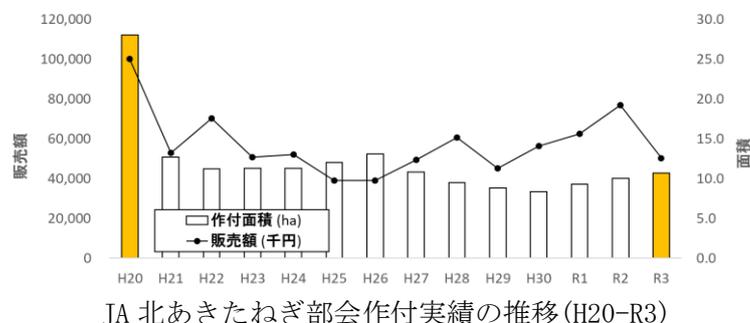
## JA あきた北「ねぎ 1 億円産地」を目指した産地育成

活動期間：令和 4 年度～継続

### 1. 取組の背景

J A あきた北ねぎ部会は最盛期の平成 20 年には 100 人ほどの部会員がおり、販売額 1 億円に迫る産地であったが、現在は 40 人程まで減少しており、出荷量や販売額の低下など産地規模が縮小傾向にある。

一方で、近年は毎年、一定数の新規作付者がおり、特に基盤整備事業を契機に農業法人がねぎ栽培に取り組むケースが増えている。J A あきた北ねぎ部会では、産地の縮小に危機を感じ、生産量の減少を食い止め、また、「ねぎ 1 億円産地」を実現させようとする機運が高まっていた。このような動きを捉え、産地と共に新規作付者の確保や単収向上のための支援、大規模作付に対応する生産技術の確立に向けて、ねぎ部会と連携した指導体制の構築に取り組むこととした。



### 2. 活動内容（詳細）

#### 1) 新規作付者の確保及びねぎ栽培面積の拡大

新規作付希望者を対象に作付推進セミナーを開催し、ねぎの収益性や、他品目と組み合わせた作型について提案した。また、J A 広報に栽培者募集の PR 記事の掲載や、フロンティア研修生や若手農業者を現地講習会に誘導するなどの啓発活動を行った。

また、栽培管理の負担軽減を目的に、土壌処理剤を活用した除草体系の研修や、大規模経営体に対する機械定植機の実演会を開催し、作業省力化技術の普及を図った。

加えて、3 ha 以上の作付を計画する大規模経営体を対象に、先進地視察研修による栽培ノウハウの確認や、産地生産基盤パワーアップ事業などの補助事業計画や営農計画の作成支援等に取り組み、営農開始が円滑にできるよう体制整備を図った。また、各経営体の若手構成員を対象に、既に大規模生産に取り組む農業法人の施設で体験研修を行う機会を設け、大規模生産管理技術の習得とともに、組織管理の重要性への気づきを与え、担い手としての意識醸成を図った。

#### 2) ねぎ作付者の生産技術向上

土壌調査を希望する生産者を対象に、土壌断面調査を行い、各ほ場の排水性や土壌特性について調べた（実施件数 18 戸/部会 35 戸）。調査デ

ータは、農業試験場と連携して解析し、その結果を踏まえて、土壌条件に合わせた排水改善機械の活用や、緑肥などの導入による土壌物理性の改善をテーマに土づくり研修会を開催した。

自動操舵トラクターによる定植作業の実演や農業用ドローンを活用した防除技術研修会を開催し、スマート技術導入による省力化体系について部会員の理解を深めた。

産地の課題を共有するとともに、課題解決の進捗や新たな課題への対応を検討するため、市・JA・部会・農業振興普及課をメンバーとする単収向上会議を開催した。

部会出荷実績を元に個人の生産状況を分析して、単収や営農状況に応じた階層別の指導方針を定めた。特に、新規作付者など単収向上のための栽培技術の習得が必要な対象については、重点指導対象に位置づけ、篤農家やJA営農指導員と連携して個別巡回指導を実施した（重点対象4名）。また、新たにSNSによる連絡体制を構築し、大雨などの災害時や病害虫への対策技術、市況情報など、指導情報を迅速に発信した。



研修会の様子

### 3. 具体的な成果（詳細）

#### 1) 新規作付者の確保及びねぎ栽培面積の拡大

ねぎ作付に対する啓発活動の結果、R6年度まで新規作付者が5名増え、作付面積が1.0ha増加した。また、作業省力化技術の普及により、除草作業の省力化が進み、既存生産者4名において計0.6haの作付面積が増加した。さらに、大規模経営体の生産体制整備支援によって労働力を踏まえた営農計画の作成や、補助事業を活用した農業機械の導入が進み、R6年度は2経営体が営農を開始でき、作付面積が1.6ha増加した。今後、大規模作付を予定している3地区に対しては、各地区の基盤整備計画会議に出席し、営農構想への助言や地域の合意形成への支援を行った結果、1地区でねぎの導入が決定し、試験栽培が実施されるなど、作付拡大への動きにつながった。

#### 2) ねぎ作付者の生産技術向上

排水性改善のための土づくり手法の普及によって、ねぎ部会内では場条件の改善に対する意識が高まり、プラソイラーや溝堀機などの排水性を改善する農機を部会で導入するなど、産地として排水改善に取り組む体制が構築された。

作業効率化のためのスマート技術の普及によって、一部の大規模経営体では、自動操舵システムと連動した機械定植機が導入されるなど、スマート技術の現地普及が進んだ。

指導体制の強化の結果、栽培技術や防除管理について、現場の課題を踏まえた見直しが図られた。重点指導では、対象4名のうち3名で地域

平均を上回る単収を上げることができた。また、SNSによる情報発信体制が部会内で定着した。さらに、篤農家との技術交流の場としても活用され、情報ツールとして期待以上の効果を上げた。

#### **4. 農家等からの評価・コメント（大館市 A 氏）**

高齢化等で作付を断念する生産者が多く、面積の減少が速いものの、販売努力により売上が伸びていることから、販売額 1 億円に向け個々の高単価規格の比率向上を頑張りたい。また、大規模法人にあっては、担い手不足が深刻化する中、良質な雇用環境を整備し、持続的に人材を確保できるよう組織力の強化が求められる。

#### **5. 普及指導員のコメント（北秋田地域振興局 主任 大信田）**

面積および販売額については一定の効果が見られている。一方で、大規模経営体の参入や夏ネギにおける病害の発生などにより、面積あたりの単収が低下傾向にあるため、大規模栽培体系の確立や夏ネギの品質向上に向けた管理手法の見直しによる産地支援を継続したい。

#### **6. 現状・今後の展開等**

夏ネギの栽培において湿害や軟腐病などの発生が目立っており、リスク分析に基づく栽培歴や防除体系の見直しを行い、適期作業の徹底による収量の安定化を図る。